

【現状の交通課題・今後の対応】

札幌駅周辺は、市民・来街者・観光客・外国人など様々な人々が訪れる交通の要衝であることから、交通の混雑など以下に示す交通課題を抱えている。

【交通動線の輻輳】

- ・ 駅利用に関するバス、タクシーといった交通に加え、周辺の商業施設を利用する一般車両との交通動線の輻輳、さらにはこれら自動車類と歩行者との輻輳によって、常に混雑状況を呈している。

【路上駐車による交通阻害】

- ・ 荷さばき車両、タクシーの待ち行列、駐車場への入庫待ちといった車列が走行車線を狭め、円滑な交通の流れを阻害している。

【変則交差点によるタクシー処理】

- ・ 南口タクシープールは、変則交差点のため、タクシー専用の信号現示を設けなければならないが、北5条手稲通の青時間比が低い。

【分かりづらい乗り換え動線】

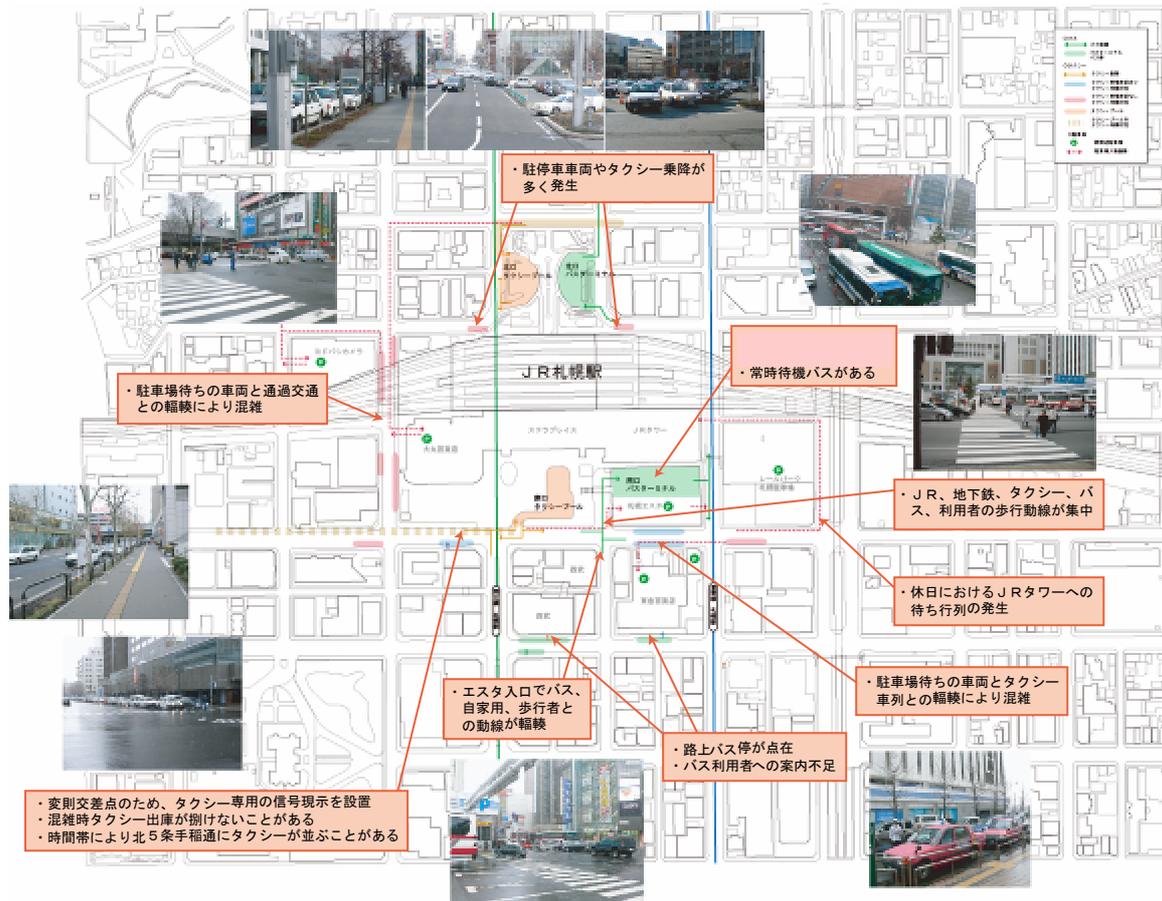
- ・ JRや地下鉄からバスを利用する際、北口か南口か、バスターミナルか点在する路上バス停か、サイン不足などもあって分かりづらい。
- ・ 南口バスターミナルは、券売所・乗降場などが分かり難く、利便性等に課題がある。
- ・ 地下1階レベルでは、地下鉄東豊線への動線が分かりづらい。

このような状況に加え、新たな要素として、平成23年3月12日に、「札幌駅前通地下歩行空間」が開通し、札幌駅交流拠点と大通交流拠点とが地下歩道でつながった。

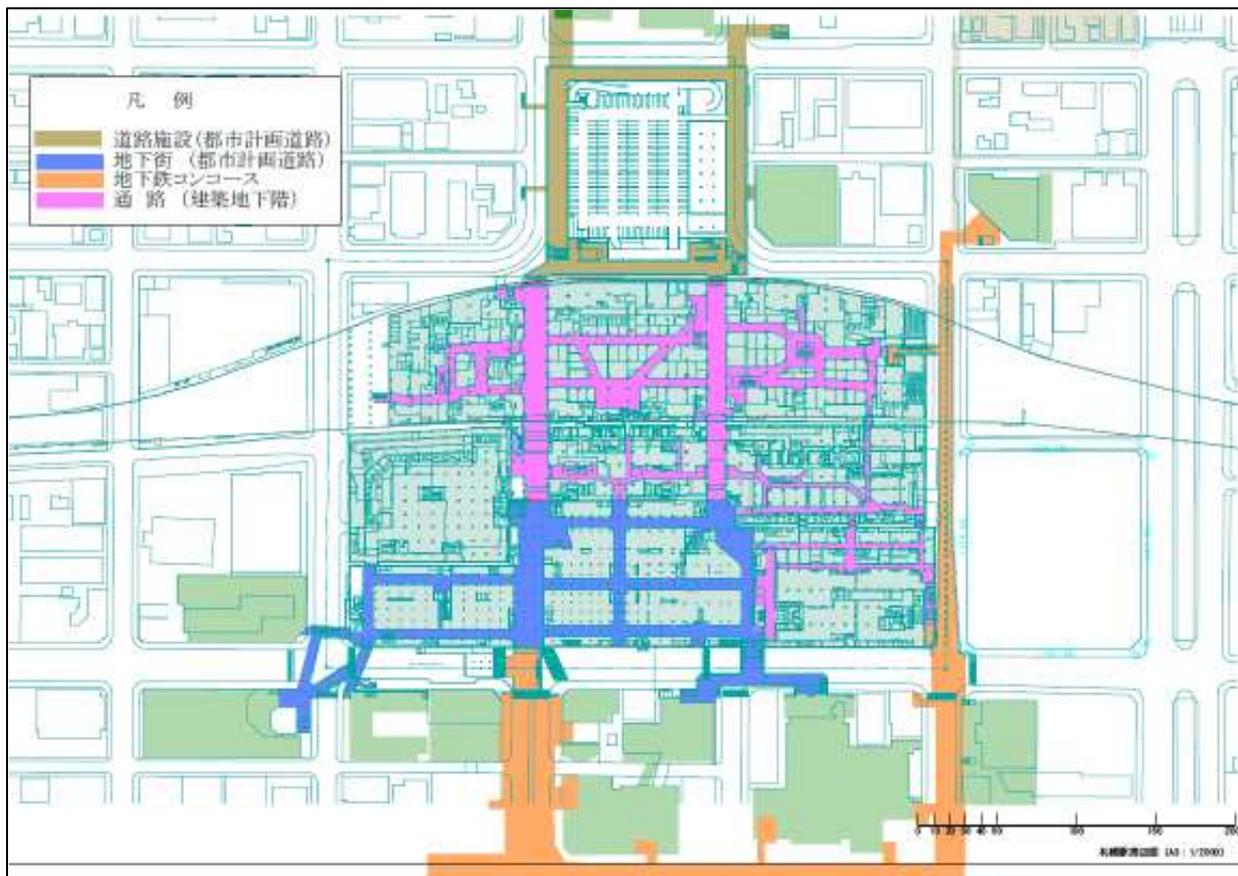
このことにより、札幌駅周辺と大通・すすきの周辺とに二極化していた都心商業圏が、四季を通じて安全で快適な歩行空間によって一体化されるとともに、沿道ビルとの地下接続や多様な空間活用により、人々が憩い楽しめる空間が創出されたことで、人の流れや動きが活性化し都心全体の歩行者交通量が増大しつつある。

さらに、路面電車事業の経営基盤の強化や、まちづくりへの活用を図るため、「都心地域」「創成川以東地域」「桑園地域」の3地域を対象に路面電車延伸の検討が進められており、路面電車の札幌駅乗り入れが想定される。

そして、北海道・札幌の活性化に不可欠である北海道新幹線の札幌駅乗り入れ実現に向けた取組や、自動車交通の都心アクセス強化などについての検討も進められており、将来に向けた札幌駅交流拠点のあり方として、これらを視野に入れた対応が求められる。



札幌駅周辺交通課題図（再掲）



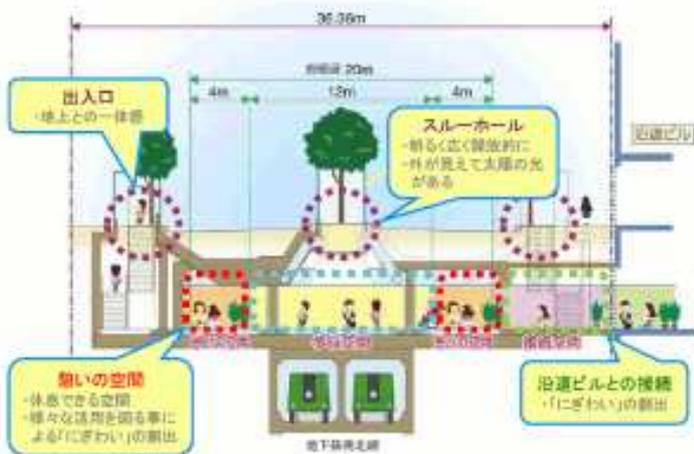
地下通路ネットワーク現況図

■事業概要

区 間 地下鉄南北線さっぽろ駅から大通駅
 延 長 約520m（うち国道区間は約160m）
 幅 員 20m（歩行空間12m + 憩いの空間4m×2）
 事業期間 平成17年度から平成22年度まで（地下部）
 平成23年度まで（地上部、予定）
 供用開始 平成23年3月12日（土）



【断 面】



札幌駅前通地下歩行空間事業概要

2) 基本的な考え方

既述したとおり、札幌駅交流拠点においては、北海道および札幌市の活性化を牽引し、札幌の都心全体の底上げと均衡ある発展を目指すために、道内最大の交通結節点としての役割を踏まえた新たな都市機能を誘導し集積していくことが必要である。

一方、交通の観点からは、市民や市外からの来訪者のみならず、道外さらには国外から訪れる人々にとっても交通の要衝であることから、高齢者などの移動制約者や地理に不案内な人への対応はもちろんのこと、国際的な観点からも様々な機能向上を図る必要がある。

また、以下のとおり札幌駅をとりまく様々な交通機能の集積が期待される中で、北海道・札幌の玄関口としての交通結節点機能の強化は、今後、ますます重要となる。

(新幹線の札幌延伸)

北海道と東北地域の新たな連携軸を形成し、両地域が一体となって発展するためにも、四季を通じて安定的な交通ネットワークの提供により、主要都市と短時間でアクセス可能な大量輸送機関である新幹線の札幌延伸は重要である。

また、東日本大震災によって甚大な被害を受けた地域の復旧にあたっては、東京方面だけではなく北海道方面からも効率的に人流・物流の支援を行うことが必要であったと考えられ、今後、被害地域の復興を加速させるためにも、北海道方面からのアクセス性を高める交通基盤の整備は、日本全体の国土計画上も非常に有効である。

このような観点から、札幌駅が北海道のみならず北日本の一大交通拠点としての役割を担う必要性はより一層高まっており、そのためにも新幹線の札幌延伸は不可欠である。

(都心アクセス機能の強化)

北海道における物流のほとんどは自動車であり、鉄道駅から遠い観光地への移動は、自家用車、レンタカー、貸切バスなどの自動車交通が主体となっている。これら物流・観光拠点と、都心および空港・港湾等の交通拠点間の移動距離は長く、また、日常の交通と輻輳するため、都心内の交通混雑に拍車をかけ、特に冬期の遅れは大きな課題となっており、国際競争力低下の一因になることも懸念される。

このようなことから、道外、国外からの窓口であり、国際線ターミナル機能の充実に加え新たなICが着工されている新千歳空港や、小樽港などとの連携向上を図るため、現在、検討が進められている、自動車高速ネットワークと札幌都心部のアクセス機能強化の早期実現が求められる。

(路面電車の札幌駅延伸)

路面電車は、土地勘のない観光客や高齢者を含めた全ての人が利用しやすく、また、二酸化炭素の排出量が少ない環境にやさしい交通機関であることなどから、より積極的な活用が求められているとして、現在、延伸などに向けた検討が進められている。

このような観点から、札幌の玄関口である札幌駅交流拠点への延伸は、路面電車活用にあたって、実現すべき必要な要素である。